様式1

令和3年度　山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育課程における学習空白を補完する。 そして、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。

山梨県立富士見支援学校旭分校　校長 小倉　正一

本年度の重点目標	
	1　児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。
	2　前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。
	3　健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

番号	評価項目（本年度の重点目標）	具体的方策（本年度の重点目標）	方策の評価指標（本年度の重点目標）	自己評価結果（令和3年度末評価（ 2月 1日現在））	達成度	成果と次年度への課題・改善策（令和3年度末評価）
1	児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別の教育支援計画の作成、個別の指導計画作成により、適切な評価を行い、指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証（満足度80%）	個別の支援計画についての保護者説明を見直し、転入時での説明時に承諾書をお願いすることでほぼ全員の同意を得られ、作成することができた。 個別の指導計画については転入ごと、各学期ごと作成し職員全員で確認し、評価会議を行いながら次の指導につなげられるように取り組んだ。	A	個別の指導計画についてはほぼ全員の同意を得ることができ、保護者へ提示するとともに、転籍後の活用につなげることができたが、保護者により転籍後の活用が十分でない部分も見られ、活用できるように取り組んでいく必要がある。 個別の指導計画は今後も全体で共通確認を図り、適切に伝えるよう取り組んでいく必要がある。
		児童生徒の実態・教育環境に応じて、指導法を工夫することにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証（満足度80%）	ICT機器の使い方を周知し、密を避ける環境や、遠隔授業の環境を整えることができた。一人一台端末を用いた調べ学習や、資料作成を行い、基礎的基本的な内容の理解を深めていくことができた。また、各教科・領域で体験的活動を取り入れ、分かる喜びを実現できる工夫をした。		児童用ipadの設置、アプリの整備、プロジェクタ、書画カメラの配備により、ICT教材がより有効に活用されるようになった。プログラミング教育を実施していくための環境整備が求められる。ICT機器の発達とともに、使い手自身の技能向上も必要である。
2	前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。	チーム学校として支援に努める。また、インターネット活用(web会議)等により、保護者や前籍校、病院、関係機関等と連携をさらに深め、児童生徒の教育の充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証（満足度80%）	前籍校や連携機関等との連携においては、電話やメールに加え、ウェブ会議を実施した。適切な時期に会議を開くことができ、円滑な連携につながった。富士見支援学校本校とは、保護者や児童生徒のニーズに合わせて、適切な支援を検討し、連携することができた。	A	在籍児童生徒数の増加に伴い、コーディネーターの業務も授業時数も増加している。主治医同席の会議設定が非常に難しくなっているため、後補充時間を増加を要望しながら今後の対応を検討したい。
		教育相談、訪問支援、学校見学、研修支援等を適切に実施し、児童生徒の支援の充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証（満足度80%）	支援対象地域の全ての適応指導教室を訪問し、旭分校の学校紹介やセンター的機能の紹介など広報活動を実施した。これまでの5つの支援形態に加え、新たに自学サポートを開始した。4名の利用があった。また、体験学習においては、学校や人に対する不安が強い児童生徒に対応し、ベッドサイドから開始できるように改善した。		家庭に課題があり福祉の支援が必要なケースが増加している。支援地域の福祉にどのようなリソースがあるのか把握し、連携をはかっていく必要がある。また、主治医の持ち替えがあったとしても、変わらない支援が提供できるよう、医療のニーズの把握や確認を行い、旭分校のシステムについて丁寧な説明を行いたい。
3	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を実践し、その充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証（満足度80%）	学部目標や進路指導計画と関連付けながら、学部、学年で情報共有・連携しながら実施した。キャリア・パスポートについては、昨年度の反省も踏まえ、より効果的に活用できるよう内容と記入時期を変更した。進路指導については、児童生徒の希望を把握し、進学を明確にイメージできるように進路集会や高校見学等を実施した。	B	児童生徒個々の実態と指導目標を全体でよく確認、共有し、役割分担しながらさらに連携を深めていきたい。進路については、進学に向けて今自分に必要な力をより明確にできるような指導を心がけていく必要がある。キャリア・パスポートについては、行事での活用等も視野に入れ、一層効果的に活用できるように検討していく。
4	多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を図れるようにする。	児童生徒、保護者、関係機関等との対応における時間外勤務の振り替えを適切に行うことにより、職員の多忙化、多忙感の解消に努める。	教職員アンケートによる検証（満足度80%）	児童生徒、保護者、関係機関等との対応における時間外勤務の振り替えを行った。時間外勤務振替申請簿の運用により、職員の多忙化、多忙感の解消に努めた。 「多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を図れるようにする」というアンケート質問項目においても高い肯定的評価を得ることができた。	A	引き続き、時間外勤務の振り替えを適切に行い、職員の多忙化、多忙感の解消に努めていきたい。 また、出退勤管理を通じて勤務時間のマネジメントを行うと同時に、相談しやすい環境を地整えながら「教職員が意欲的に取り組める環境」づくりを行っていきたい。

学校関係者評価

実施日 （令和4年2月18日）

番号	意見・要望等
4	・ICT活用の一例ではあるが、HPなどを活用して外部発信を続けていくことが大切である。 ・児童生徒、大人がICTに慣れてきた感がある。同時に不登校のお子さんが増えているようにも思うので、うまく活用していけたら良いと思う。 ・発達特性のある学生で、オンライン授業になったことで欠席が無くなり、単位習得できたケースもある。児童生徒によっては、この授業形態が有利になる者もいるのではないだろうか。 ・コロナ禍の状況だが、生徒の体験型の行事を重視した活動をしてもらい、大変助かっている。この状況なので、子ども達にとっても貴重な経験になっていると思う。 ・不登校だったり、家庭に居場所がない子ども達が多いため、家庭外で過ごす学校での行事は本当に貴重で、宿泊学習のことなどよく話してくれる。安定した、信頼できる大人と関わるとてもよい機会になっていると思う。 ・1人1人に寄り添った対応ができているため、特に大きな問題はないと感じている。勉強面も生活面も細やかな対応をしてもらっていると感じている。
4	・コロナ禍であり、更に病弱となると外部との連携は難しい点も多いが、工夫を重ねていく必要がある。 ・児童生徒をよく見ていただきとても助かっている。学校に通えるようになって笑顔が増え、充実してきている様子がわかる。摂食障害のお子さんが増えてきているので、旭分校で研修会を行う機会を利用して情報を共有していきたい。 ・診断は無いが、病弱不適応のお子さんへの対応は大変難しいため、教育と医療、福祉の連携が大切である。 ・SCによる相談や支援がうまくいかなかったことの振り返りが必要である。出生数が減少する一方で、治療が進歩し学校へ通える程度まで治る子供が増えているので、病弱児はさらに増えていくと思う。高校に上がると学校と医療機関とのコミュニケーションが急激に低下することを実感しており、病弱児の問題は我々の課題と考えている。 ・さまざまな制限がある中で、日々改善に取り組んでもらっているので、病院との連携も非常にとりやすくなってきていると思う。
3	・高校に進学した後、何とか通えているようだが、仕事を見つける段になると個々の疾患が足かせになってしまっているケースもある。今後働いていくことに不安を感じる高校生が増えてくると思われるので、対応が望まれるところである。 ・高等部が無いことを大きな問題として捉えていたが、インクルーシブの流れや、思春期の発症の多さを考えると今の山梨県の現状のシステムで十分に機能すると期待できる。
4	・多忙感の改善については様々な工夫が必要。振り替えについては、アンケート結果から良いと思われる。 ・人員の確保や支援システムのわかりやすさ、病弱教育の関係機関の存在の周知が大切である。

留意点 （1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。